

25 コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）国府台病院

事業名: コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業**実施主体:** 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科**対象国:** フィリピン共和国**対象医療技術等:** ②③④ 自閉スペクトラム症を含めた発達障害及びコロナ禍の子どものメンタルヘルスに対する医療技術と人材育成について。**事業の背景**

フィリピン共和国は人口が100,981,437人、世界で最も災害の多い国のひとつである。2019年に精神保健法が施行され、今後精神障害者の人権保護に関する関心が高まると予想される。しかしながら、精神科病院は5施設、精神科病棟を持つ総合病院が14施設しかなく、外来がある施設は46施設であり、人口10万人あたりの精神保健に携わる専門職はわずか2.0名である。また、人口の約37%が14歳未満である特徴もある（WHO AIMS、2007）。フィリピンでは子どもの16%が精神障害を抱えていたと報告（WHO AIMS、2007）があるにも関わらず、2つの精神科病院においては児童思春期のためのベッドは2%しかない現状である。さらに、COVID-19の影響からフィリピンは全く対面授業の再開のめどが立たないこと、外出規制も厳しく日本よりもさらに心理的ストレスの問題が大きいことが想定される。

事業の目的

フィリピン児童精神医学会、フィリピン精神医学会、フィリピン精神保健協会、フィリピン総合病院、国立精神保健センターと連携し、コロナ禍における児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療に関する研修会（オンラインの可能性もあり）で開催を行い、その診療能力の向上を目指す。特に精神疾患の予後規定因子である発症から受診までの期間を短くすることを、地域の診療能力向上とともに目指している。

1

事業の背景についてです。

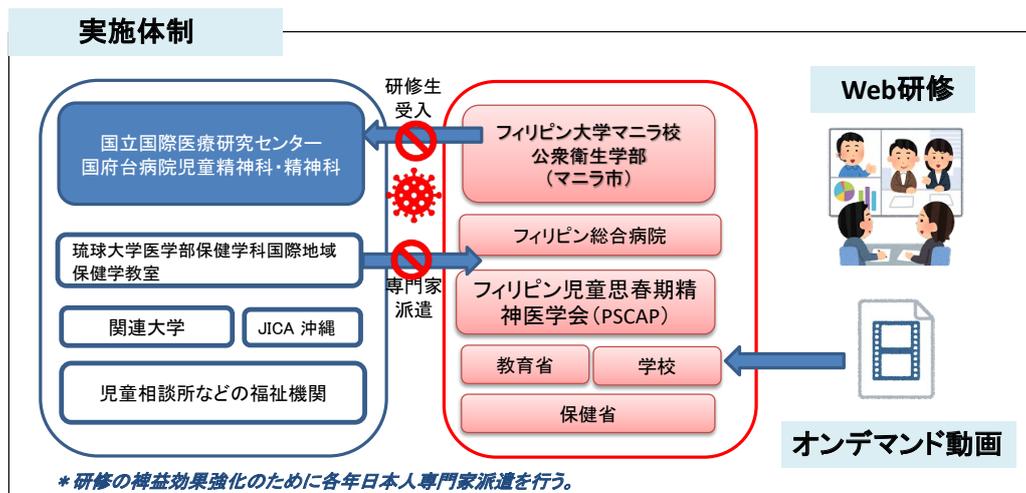
フィリピン共和国は人口が100,981,437人、世界で最も災害の多い国のひとつです。2019年に精神保健法が施行され、今後精神障害者の人権保護に関する関心が高まると予想されます。しかしながら、精神科病院は5施設、精神科病棟を持つ総合病院が14施設しかなく、外来がある施設は46施設であり、人口10万人あたりの精神保健に携わる専門職はわずか2.0名です。また、人口の約37%が14歳未満である特徴もあります（WHO AIMS、2007）。フィリピンでは子どもの16%が精神障害を抱えていたと報告（WHO AIMS、2007）があるにも関わらず、2つの精神科病院においては児童思春期のためのベッドは2%しかない現状です。さらに、COVID-19の影響からフィリピンは全く対面授業の再開のめどが立たないこと、外出規制も厳しく日本よりもさらに心理的ストレスの問題が大きいことが想定されます。

事業の目的についてです。

フィリピン児童精神医学会、フィリピン精神医学会、フィリピン精神保健協会、フィリピン総合病院、国立精神保健センターと連携し、コロナ禍における児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療に関する研修会（オンラインの可能性もあり）で開催を行い、その診療能力の向上を目指します。特に精神疾患の予後規定因子である発症から受診までの期間を短くすることを、地域の診療能力向上とともに目指しています。

25 コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）国府台病院

**研修目標**

対象機関はフィリピン大学マニラ校であり、参加者はフィリピン総合病院、国立精神保健センター、およびフィリピン児童青年精神医学会会員の中から実際に子どものメンタルヘルスに関わっている専門職（医師、心理士、看護師、保健師、ソーシャルワーカーなど）である。研修内容は、コロナ禍における児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する研修会である。感染状況を鑑みながら、COVID-19に関連する子どものメンタルヘルスに関する取り組みに関する研修会をする（感染拡大時にはWeb会議に変更）。なお、琉球大学を中心に日本・アジアにおける学校保健強化の経験のシェアとそれに基づく議論展開する。到達目標は、フィリピン児童青年精神医学会と連携したオンライン研修会の開催である。

2

実施体制は、フィリピン大学マニラ校、フィリピン総合病院、国立精神保健センター、およびフィリピン児童青年精神医学会をカウンターパートとして、NCGM を中心とした日本の専門家チームが研修を行います。

研修の目的は、対象機関はフィリピン大学マニラ校であり、参加者はフィリピン総合病院、国立精神保健センター、およびフィリピン児童青年精神医学会会員の中から実際に子どものメンタルヘルスに関わっている専門職（医師、心理士、看護師、保健師、ソーシャルワーカーなど）です。

研修内容は、コロナ禍における児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する研修会です。感染状況を鑑みながら、COVID-19に関連する子どものメンタルヘルスに関する取り組みに関する研修会を行います（感染拡大時には Web 会議に変更）。なお、琉球大学を中心に日本・アジアにおける学校保健強化の経験のシェアとそれに基づく議論展開します。

到達目標は、フィリピン児童青年精神医学会と連携したオンライン研修会の開催です。

25 コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）国府台病院

1年間の事業内容

令和4年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修内容		オンライン会議 <参加者> フィリピン人7名 日本人2名 <講師> ・日本人1名 <内容> Agenda & Content of the webinar2022						Webinar 2023 <参加者> フィリピン人67名 <講師> ・日本人1名 ・フィリピン人 1名 <内容> Child and Adolescent Mental Health post COVID- 19: Promoting Mental Health in the New world		Training Program <参加者> フィリピン人17名 <講師> ・日本人3名 ・フィリピン人 3名 <内容> Seminar on the Mental Health of Children during COVID-19 in Japan and the Philippines
										
		オンライン						オンライン		会議中


→
 オンデマンド動画サイト

6月にオンライン会議を実施し、参加者はフィリピン人7名、日本人2名であり、講師は日本人1名でした。その内容は、Agenda & Content of the webinar2022 となっています。

12月には、Webinar 2023 を開催しました。参加者は、フィリピン人67名であり、講師は、日本人1名とフィリピン人1名でした。その内容については、Child and Adolescent Mental Health post COVID-19: Promoting Mental Health in the New world となっています。

2月にマニラで対面式の研修会を開催しました。参加者はフィリピン人17名で、日本人3名、フィリピン人3名でした。内容は、Seminar on the Mental Health of Children during COVID-19 in Japan and the Philippines であり、6つのレクチャーを開催し、ディスカッションを行いました。

同時に、動画サイトを使って、オンデマンドの研修動画を10本公開して、フィリピン国内からも自由に見ることができるようになりました。

Webinar 13 DECEMBER 2022



CHILD AND ADOLESCENT MENTAL HEALTH POST COVID-19: PROMOTING MENTAL HEALTH IN THE NEW NORMAL

13 December 2022 | 3:00 PM via ZOOM

Social Determinants of Mental Health
Cynthia Leynes, MD, MSc, FPPA, FPSCAP
Professor Emeritus
Department of Psychiatry and Behavioral Medicine
University of the Philippines College of Medicine

Child and Adolescent Mental Health Post COVID-19 in Japan
Masahide Usami, MD, PhD
Director
Clinical Center for Children's Mental Health
Kohnodai Hospital
National Center for Global Health and Medicine

Crystal Amiel Estrada, RMT, PhD
Associate Professor
Department of Environmental and Occupational Health
University of the Philippines College of Public Health

Scan the code to register or visit <https://bit.ly/2022MHwebinar>



<参加者>
フィリピン人67名

<講師>
・日本人1名
・フィリピン人 1名



2022年6月にZOOMを利用してウェビナーを開催しました。Social Determinants of Mental HealthとChild and Adolescent Mental Health Post COVID-19 in Japanと二つの演題をオンラインにて実施しました。



Training Program 15–16 February 2023 @ Manila



内容

- Medical Reformatory for Juvenile Victims of the Corona disaster in Japan
- Profile and Circumstances of Abused Children during the COVID-19 Pandemic in the Philippines
- Children's Mental Health during COVID-19 in Japan
- Mental Health Outcomes of Sexually Abused Children seen at Women and Child Protection Unit, National Center for Mental Health, Pre and Post Pandemic
- Social work on children's mental health during COVID-19

フィリピン大塚より、アリピプラゾールの自閉症への適応についても説明会あり



参加者&講師

<参加者>
フィリピン人17名

<講師>
・日本人3名
・フィリピン人 3名

2023年2月にフィリピン大学マニラ校公衆衛生学部にて、対面式の研修会を実施しました。

講義内容は以下の通りとなっています。

- Medical Reformatory for Juvenile Victims of the Corona disaster in Japan
- Profile and Circumstances of Abused Children during the COVID-19 Pandemic in the Philippines
- Children's Mental Health during COVID-19 in Japan
- Mental Health Outcomes of Sexually Abused Children seen at Women and Child Protection Unit, National Center for Mental Health, Pre and Post Pandemic
- Social work on children's mental health during COVID-19

また、フィリピン大塚より、アリピプラゾールの自閉症への適応についても説明があり、その早期発見と薬物療法の可能性について伝達することができました。

25 コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM) 国府台病院

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①オンライン研修での対象者(2回) ・医師(フィリピン児童精神医学会会員)および心理士、ソーシャルワーカー、看護師、保健師、教師などの100-200名。プレテスト・ポストテストで理解度の15%向上 ②オンデマンド研修の新規動画の作成	①今回の事業結果を発表し、作成されたレポートもしくは論文が引用されること。 ②本事業を通じてフィリピン国内での裨益効果として、オンラインサイトのアクセス数及び動画の再生回数の増加	①2021年度にフィリピン児童精神医学会による児童精神医学に関する講習会もしくは、大学、医学会、保健省、教育省などを中心としたWebinarが開催されること。 ②過去3年間の教材を利用したオンラインサイトの立ち上げ(フィリピン児童精神医学会と共同サイトとして、フィリピン国内研修への利用) ③多職種の医療スタッフのネットワークだけでなく、医療、保健、教育など子どものケアについての多機関ネットワークが構築されること
実施後の結果	①オンライン研修での2回実施した。 ②プレテスト・ポストテストを実施することができなかったが、ポストテストでは93%が満足を示した。 ③オンデマンド研修の新規動画10本作成した。 ④視聴回数を含めた総参加数は、238名(2月20日が143回)	①今回の事業結果は作成中であり、これまでの論文が7本の論文に引用されている。 ②オンラインサイトの動画の再生回数は2月20日で143回であったが、さらに2月28日時点で725回と増加している。	①フィリピン大学、フィリピン児童青年精神学会、教育省などを中心としWebinarを開催することができた。 ②フィリピン国内及び、フィリピン大塚でのメンタルヘルス・プロモーションでの利用が可能なフリーアクセスの動画サイトへのアップロードと公開 ③2月の会議にて、医療だけでなく、教育省を中心としたネットワークについて議論することができた。

6

アウトプット指標は、オンライン研修での2回実施しており、プレテスト・ポストテストを実施することができませんでしたが、ポストテストでは93%が満足を示しました。また、オンデマンド研修の新規動画10本作成し、視聴回数を含めた総参加数は、238名(2月20日が143回)となっています。

アウトカム指標として、今回の事業結果は作成中であり、これまでの論文が7本の論文に引用されており、オンラインサイトの動画の再生回数は2月20日で143回でしたが、さらに2月28日時点で725回と増加しています。

インパクト指標として、フィリピン大学、フィリピン児童青年精神学会、教育省などを中心としWebinarを開催することができました。フィリピン国内及び、フィリピン大塚でのメンタルヘルス・プロモーションでの利用が可能なフリーアクセスの動画サイトへのアップロードにて公開しました。2月の現地会議にて、医療だけでなく、教育省を中心としたネットワークについて議論することができました。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）国府台病院



フィリピン共和国 (WHO AIMS 2007) は、37%が14歳未満であり、2019年に精神保健法が制定されたばかりです。子どもの16%が何らかの精神疾患ですが、児童思春期の入院施設は全体の2%しかない現状です。

そのような状況に対して、今年度の対象国への事業インパクトとしては、オンデマンド教材の作成: 視聴回数 725回です。事業で育成した保健医療従事者が17名であり、遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生が67名となっています。研修成果に関する論文作成は研修受講生と共に進めており、すでにリジェクトをされたが、再投稿準備中となっています。世界中で急増する自閉症に対して、フィリピン国内でも同様の状況が想定され、アリピプラゾールを含めた自閉症に関するメンタルヘルスプロモーションを行うことができました。

25 コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM) 国府台病院

これまでの成果

2017年、2019-2021年にフィリピン共和国を対象に実施し、医師・保健師・公衆衛生研究者などの保健医療従事者を育成してきている。複数名の研修生が講師として活動してきた。また、これらの事業を通じて、フィリピン大学、保健省、教育省が中協同して、Webinariが開催された。まこの事業の研修活動については、フィリピン大学と共同で国際学術雑誌にアクセプトされ、7本の論文に引用されている (Usami.M,et al.,2018、Estrada, et al,2020)。また、内閣官房 健康・医療戦略室アジア健康構想・アフリカ健康構想の広報資料として国内外に公開された。

今後の課題

- 児童思春期のメンタルヘルスに関する診療能力の向上は、患者の人権に配慮すると同時に今後急増していく子どもの精神疾患の適切な評価と治療に繋がること。
- COVID-19による学校閉鎖がフィリピン国内で続いており、New Normal時代の中での**子どものスクール・メンタルヘルス**への介入を検討すること
- 自閉症を含めたメンタルヘルス・プロモーションの展開(大塚製薬のアリピプラゾールも)。

8

2017年、2019-2021年にフィリピン共和国を対象に実施し、医師・保健師・公衆衛生研究者などの保健医療従事者を育成してきています。複数名の研修生が講師として活動してきました。また、これらの事業を通じて、フィリピン大学、保健省、教育省が中協同して、Webinariが開催されました。この事業の研修活動については、フィリピン大学と共同で国際学術雑誌にアクセプトされ、7本の論文に引用されています (Usami.M,et al.,2018、Estrada, et al,2020)。また、内閣官房 健康・医療戦略室アジア健康構想・アフリカ健康構想の広報資料として国内外に公開されています。

今後の課題として、①児童思春期のメンタルヘルスに関する診療能力の向上は、患者の人権に配慮すると同時に今後急増していく子どもの精神疾患の適切な評価と治療に繋がること、② COVID-19による学校閉鎖がフィリピン国内で続いており、New Normal時代の中での子どものスクール・メンタルヘルスへの介入を検討すること、③自閉症を含めたメンタルヘルス・プロモーションの展開 (大塚製薬のアリピプラゾールも) が考えられます。

25 コロナ禍における子どものメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）国府台病院

将来の事業計画

・展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

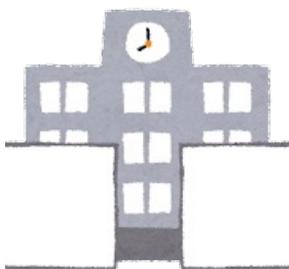
- ・ 過去20年間で幼児の死亡率は低下し、人口の約37%が14歳未満である特徴は続いており、フィリピンでは子どもの16%が精神障害を抱えている（WHO AIMS、2007）
- ・ 新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖がフィリピン国内で続いており、New Normal時代の中で子どものメンタルヘルスへの介入が求められている。
- ・ ポスト・コロナ時代は子どものメンタルヘルスに関する診療ニーズが高まる可能性がある。

フィリピンも含めた世界でもっとも人口比率の多いZ世代を対象とした情報伝達方法の必要性



持続可能なオンデマンド学習向け
Youtubeサイトの立ち上げ

オンライン



フィリピン国内のスクール・
メンタルヘルスへの介入と向上

オフライン



ポストコロナ時代の子ども
メンタルヘルスの向上に貢献

将来の事業計画については、過去20年間で幼児の死亡率は低下し、人口の約37%が14歳未満である特徴は続いており、フィリピンでは子どもの16%が精神障害を抱えています（WHO AIMS、2007）。新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖がフィリピン国内で続いており、New Normal時代の中で子どものメンタルヘルスへの介入が求められており、ポスト・コロナ時代は子どものメンタルヘルスに関する診療ニーズが高まる可能性があります。

フィリピンも含めた世界でもっとも人口比率の多いZ世代を対象とした情報伝達方法の必要性があり、持続可能なオンデマンド学習向け Youtube サイトの立ち上げをすでに行うことができ、さらにオフラインの子どもたちに向けたフィリピン国内のスクール・メンタルヘルスへの介入と向上を目指していく必要があります。

すなわち、オンライン・オフラインの両面から、ポストコロナ時代の子どもメンタルヘルスの向上に貢献していく必要があると考えています。